慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	韓国語の「고 오다」と「아 오다」について
Sub Title	A study of 'go oda' and 'a oda' in Korean
Author	金, 秀美(Kim, Soomi)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2013
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.10, (2013.) ,p.23- 42
JaLC DOI	
Abstract	The Japanese speaking learners of Korean often improperly choose Korean '-go' and '-a' as a parallel form of Japanese '-te'. Each argument of preceding studies have tried to find the solution to this problem; however it still seems to be difficult to explain how learners can choose correct Korean forms, because there are very complicated elements, such as transitive and intransitive verbs, objects, types of verbs related to this problem. This paper aims to indicate easier ways for learners to choose Korean '-go' and '-a' by focusing on the motion verb 'oda' following two Korean forms as V2. The verbs used before '-go oda' are mostly motion verbs and also transitive verbs, and in the case of '- a oda', mostly intransitive verbs, and only a few transitive verbs like 'sada (buy)' and 'tada (pour)' are also available. In this case, most transitive verbs which include the antecedent phrase show the meaning of the way of the verb 'oda'. If both '-go oda' and '- a oda' are available to be used, two forms are classified by whether they have the same meanings or not.
Notes	研究論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20130000-0023

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

韓国語の「고 오다」と「아 오다」について

金　　秀美

Abstract

The Japanese speaking learners of Korean often improperly choose Korean '-go' and '-a' as a parallel form of Japanese '-te'. Each argument of preceding studies have tried to find the solution to this problem; however it still seems to be difficult to explain how learners can choose correct Korean forms, because there are very complicated elements, such as transitive and intransitive verbs, objects, types of verbs related to this problem.

This paper aims to indicate easier ways for learners to choose Korean '-go' and '- a' by focusing on the motion verb 'oda' following two Korean forms as V2. The verbs used before '-go oda' are mostly motion verbs and also transitive verbs, and in the case of '- a oda', mostly intransitive verbs, and only a few transitive verbs like 'sada (buy)' and 'tada (pour)' are also available. In this case, most transitive verbs which include the antecedent phrase show the meaning of the way of the verb 'oda'. If both '-go oda' and '- a oda' are available to be used, two forms are classified by whether they have the same meanings or not.

1．はじめに

日本語の接続助詞「て」に対応する韓国語はいくつかの表現があるが、代表的なものには「고」と「아[1]」がある。日本語の「て」も韓国語の「고」と「아」も二つの文を結ぶという共通点がある。二つの文を一つにつなげることで時間の順序も前件が先に起こり、後件が後で起こる場合もあれば、前件と後件が時間的にほぼ同時に行われる場合もある。このような両言語の共通点こそが日本語を母語とする学習者を大変困らせる要因になるのである。

まず、日本語の例をみてみよう。

(1)　a．太郎は学校まで電車に乗って来ます。
　　b．太郎は学校まで歩いて来ます。

（1a）の「乗って」と（1b）の「歩いて」は、「て」の後に続く動詞（以下、V2）「来る」の手段を表す意味で（1a）の「乗る」は自動詞、（1b）の「歩く」も自動詞であり、「て」でつながっている。これを韓国語に対応させると以下のようになる。

（2） a. 다로는 학교까지 전철을 타고 와요.
b. 다로는 학교까지 걸어 와요.

日本語は（1a）も（1b）も後件の「来る」の手段の意味を表しているため韓国語の場合も同じ形式になると予測するであろう。しかし、（1a）の「乗って」は韓国語では（2a）の「고」に、（1b）の「歩いて」は（2b）の「아」が用いられている。これには日本語と韓国語の自他のずれも原因の一つかもしれない。すなわち、日本語の「乗る」は自動詞であるのに対して、韓国語の「타다（乗る）」は他動詞であるためである。

次は、前件の動詞（以下、V1）が他動詞で（3a、b）のように同一の目的語の「パン」を持つ場合であるが、韓国語の場合は（4a、b）のようにそれぞれ「고」と「아」を選択する。

（3） a. 花子はパンを食べて来ました。
b. 花子はパンを買って来ました。
（4） a. 하나코는 빵을 먹고 왔어요.
b. 하나코는 빵을 사[2] 왔어요.

また、（5a）の日本語の表現に対して韓国語は（5b、c）のように「고」と「아」の両方を選択するものもある。

（5） a. 桃子は友達を連れて来ました。
b. 모모코는 친구를 데리고 왔어요.
c. 모모코는 친구를 데려 왔어요.

これらは日本語を母語とする日本人の韓国語学習者を非常に悩ますものである。ここには、V1の自動詞・他動詞の関係、前件と後件においての目的語の一致や維持、後件の動詞（以下、V2）の「手段・方法」などの意味関係や複合動詞など、統語的にも意味的にもいろいろな要因が複雑にかかわっているようである。従来の研究では、「고」と「아」の意味・機能に関する分類のものや日本人学習者の誤用を指摘する報告はあるが、その解決策を明確に提示しているものはほとんどない。本稿では、従来の研究を踏まえて日本人学習者がより効果的に「고」

と「아」の選択が容易にできるような対策を設けることを目的とする。

2．先行研究

日本人学習者が使用頻度の高い韓国語の連結語尾の「고」と「아」の選択において誤用が多くみられるのは、日本語の「て」を韓国語に対応させたときに共通する意味・機能があることと韓国語の「고」と「아」自体にも意味・機能に共通するところがあるためであろう。

日本語の「て」の意味・用法については研究者によって分け方はいくつかあるが、大概５つから９つの分類に分けている。森田（2002）では、森田（1986）に「⑧仮定逆接」を加えて①並列・累加、②対比、③同時進行、④順序、⑤手段・方法、⑥原因・理由、⑦逆接、⑧仮定逆接、⑨結果の９分類で一番多い。生越（1987）では、森田（1986）の分類を大きく５つの①並列・対比、②継起（順序）、③状況（同時進行）、④因果関係（原因・理由、結果、手段・方法）、⑤逆接に分類している。宮島（1998）では、①付帯状況、②手段・様態、③継起あるいは並列、④原因、⑤維持、⑥結果持続に分けている。また、『新版日本語教育辞典』（2006）では、①様態、②手段・方法、③継起、④起因、⑤並列に分類している。

このように、研究者によって様態や方法の分類が異なる場合はあるが、共通しているのは「①並列②継起（順序）③原因、起因、因果関係④手段⑤様態」である。

日本語の「て」に対応する韓国語の連結語尾は29個あるという報告もある（오자키2007）[3]。その中で、頻度上位の２つが「고」と「아」である[4]。

しかし、本稿では日本語を母語とする韓国語学習者が「고」と「아」を選択する際に何を基準にして選べばいいのかを提示したい。

韓国語の「고」と「아」は、両方とも二つの文をつなげる連結語尾であるが、V1とV2に動詞が来ることができることから形態的には、文の連結、複合動詞、補助動詞と同じ形をしているため、1960年代からその意味や機能について議論されてきた。その多くの研究は、主に、「고」と「아」の意味や用法に関するもので、「고」は①同時、②継起を、「아」は①原因・理由、②継起、③同時、④方法を表しているという。（최현배1965、남기심1978、이상복1987、이기갑1998、内山1999、김정남2006など）。その他に、近年K-POPなどの影響で韓国語学習者が多く増えたことで、韓国語教育の研究も増えている（김수정2004、남수경외2004、오선영2006、印省熙2013など）。これらの研究では韓国語学習者の作文などからその誤用について報告している。原因・理由を表す「아(서)[5]」と「니까」の間違い、「順序」を表す「고」と「아」の選択の間違いなどが主に述べられている。これらの研究では学習者の作文などから間違いをパーセンテージで表している。学習者がどの場面でどのように選択の間違いをするかをみるには大変貴重な研究ではあるが、誤用が多くみられる「고」と「아」の選択を容易にできる方法は提示されていない。内山（1999）では、権在淑（1994）と鄭鉉淑（1996）の分類を基準に

して「고」と「아」の文法的意味の違いを説明している。基準となる分類の方法論の定義が曖昧で主観的な判断によるものもあるため意味分類に重複するものがある。しかし、同じ用言を「고」と「아」の両方の例文を提示して説明しているところは今まであまり見られないものである。이상복 (1987：10) では、「아」の統語的な特徴として先行文と後行文は主語の一致、(深層構造での) 目的語の同一、同一語句の存在などをあげている。ここでいう「同一語句の存在」は従来の韓国語の教材では「先行文と後行文の密接な関係性があること」、「関連性」あるいは「前提条件」などで説明されている。[6]

以上のように、韓国語の「고」と「아」の問題は前件と後件との主語や目的語、意味などさまざまな要因が絡んでいるため、「고」と「아」の選択を難しくしているようである。韓国語の文法書や教材の「고」と「아」の説明では、それぞれの意味の分類を行っているものが多い。それぞれの意味には重複する意味・機能があり、その重複する意味こそが学習者において「고」と「아」の選択を困らせるものである。たとえば、『韓国語文法語尾・助詞辞書』(2010：56) では、「고」の説明に「前の行動が後の行動の手段や方法を表す」という説明がある。また、「아」の項目にも「副詞的な機能として方法や手段を表す」と書いてある。このように両方に重複する意味・機能があるため、日本語は「て」形で共通している形を韓国語に対応させるとどうも統一したくなるようである。[7] その中で、『ことばの架け橋』だけは、V1が自動詞か他動詞かによって「고」と「아」の選択を説明している。[8]

日本語の「て」形と韓国語の「고」と「아」の対応をみることにおいて前件と後件の多様な連結を見る必要はあるが、本稿ではまず、後件は「来る」という移動動詞に絞ることで、前件に来る用言の様子が分かりやすくなってくると思う。他の移動動詞との関係は他の機会で述べることにして、今回はV2を「来る」に固定して前接する「고」と「아」の選択を考察したいと思う。

3.「고 오다」と「아 오다」の使い分け

『韓国語文法 語尾・助詞の辞典』(2010：544) では「고」と「아」の比較の説明を「「아서」が「時間の前後の順序」を表す場合、「고」に置き換えることができるが、その意味はやや異なる」と述べている。その例として次を上げている。

(6) a. 영숙이는 친구를 만나고 학교에 갔다.
(ヨンスクは友達に会って、(その後、友達と別れてから) 学校に行った。)
b. 영숙이는 친구를 만나서 학교에 갔다.
(ヨンスクは友達に会って、(その友達と一緒に) 学校に行った。)

（6a）の「고」は単に時間的な前後の順序を表わすのに対して、（6b）の「아서」は前の事柄が後の事柄の前提となり、後の行動が前の行動の目的となると述べている。多くの教材でも、「고」と「아」の共通する動作の前後を表す「動作の先行・継起」の意味の違いをこのように前件は後件の「前提」や「目的」または「前後の動作が緊密な関係」を表す場合は「아」を用いると説明されている（『말이 트이는 한국어』、『改訂版韓国語レッスン初級Ⅱ』、『韓国語へのとびら』など）。

しかし、その「前提」や「緊密な関係」を表しているとも解釈できる次の文をみてみよう。

（7） 영화를 보고 감상문을 썼습니다.（『韓国語レッスン初級Ⅱ』から）
（映画を見て感想文を書きました。）

（7）の後件の「感想文を書く」ことの前提として「映画を見る」とも解釈できるであろう。そうすると、学習者は「아」を選択する可能性も出てくるであろう。[9]（7）の説明には「先行の文の動作が完了したあと、後続の文の動作が続くことを表す」と書いてある。二つの文を羅列する意味・機能は「고」で表すため、単なる接続の場合は「고」と「아」の置き換えの間違いは少ないが、両者に共通する前件と後件の時間の順序の接続の場合には誤用が多いという。

従来の研究や教材では断片的に「고」と「아」のぞれぞれの文に対する意味・機能を説明しているため、その項目に提示されている例文はその説明が妥当のように思われる。しかし、韓国語を学習する学習者の立場からは、作文や会話において常に「고」と「아」の選択をしなければならない。特に、日本語では「て」形という一つの形が韓国語では二つの形が存在していて、両者の意味・機能も重複しているものがあることは非常に頭を悩ませる問題である。学習者が「고」か「아」の選択を容易にできるようにするためには他の方法を設ける必要がある。

本稿では、日本語の「て来る」が対応する韓国語の「고 오다」と「아 오다」の選択のとき、動詞によってどのように選択するかを見るため、『韓国語必須単語6000』の中で動詞1407個を分類してみた[10]。

そのすべての動詞に「고 오다」と「아 오다」[11]がどのような動詞と結合するかまた、その意味に違いがあるかによって次のように大きく４つに分けることができる。

（8） Ⅰ：「고 오다」だけが成立するもの
Ⅱ：「아 오다」だけが成立するもの
Ⅲ：「고 오다」と「아 오다」の両方が成立するもの
Ⅲ−１：「고 오다」、「아 오다」の意味の違いがあるもの
Ⅲ−２：「고 오다」、「아 오다」の意味の違いがないもの

Ⅳ：「고 오다」と「아 오다」の両方が成立しないもの

V2の「오다（来る）」の意味は、人や物が話し手の方に移動することを表す。また、「오다（来る）」は基本的には自動詞なので場所以外の目的語は持たない。しかし、経路や叙述性のある名詞には「を」格もつくことができるが、その用法は限られる。

では、3－1から各々の動詞と「고 오다」、「아 오다」の関係を見ていくことにする。

3－1．「고 오다」だけが成立するもの

V1には動作動詞がくることが多い。また、前件の動作が完了して「来る」ことを表す。従来の研究ではいわゆる単なる羅列を意味するものがここに属する。それは「고」が二つの文を並列につなげる意味・機能があるためであろう。また、着用動詞や再帰動詞[12]もここに分類される。これらの「고 오다」形にはV1に他動詞がくることが多いが一部の自動詞「자다（寝る）、쉬다（休む）、놀다（遊ぶ）」などもここに分類される。

(9) 밥을 먹고 학교에 왔어요.
（ご飯を食べて学校に来ました。）
(10) 술을 마시고 늦게 왔어요.
（お酒を飲んで遅く来ました。）
(11) 일을 끝내고 왔어요.
（仕事を終えて来ました。）
(12) 영화를 보고 왔어요.
（映画を見て来ました。）
(13) “어젯밤에도 김참봉 아들네 사랑방에서 자고 왔읍네그려.”（k）
（「昨夜にもキムチャムボンの息子の部屋で寝て来ましたよ。」）
(14) “그래서 자네는 그를 그곳에 남기고 왔군 그래, 시어즈？”（k）
（「それで、君は彼をそこに残して来たんだね、シアズ。」）
(15) “난 그를 그곳에 놓고 왔어.”（k）
（「僕は彼をそこにおいて来た。」）
(16) “넌 특등실 잠그고 나가시마를 단단히 결박해 놓고 와라.”（k）
（「君は特等室にカギをかけてナガシマをしっかり縛っておいて来て。」）
(17) “나는 좀 전에 신을 만나서 그를 만지고 왔어.”（k）
（「私はちょっと前にシンに会って彼を触って来た。」）
(18) 수첩과 중요한 문건은 민족학교에 맡기고 왔고, 그 밖에（後略）

(手帳や大事な書類は民族学校に預けて来て、その他に（後略))

(19) “여기 부대장은 누구지?”“모르고 오셨습니까?”(k)
(「ここの副隊長は誰だ？」「知らないで来られましたか。)

(20) DVD의 확산은 '안방극장'의 혁명을 몰고 오고 있다.(世)
(DVDの拡散は「昼ドラ」の革命を引き起こしている。)

(21) 새 구두를 신고 왔어요.
(新しい靴を履いて来ました。)

(22) 모자를 쓰고 왔어요.
(帽子をかぶって来ました。)

V1が自動詞の場合、目的語は想定されないためV2の目的語と同一かどうかを考えなくてもいい。しかし、V1が他動詞の場合は、目的語と後件の「오다」との目的語の移動に注目する必要がある。

従来の研究で述べられてきたように「아」で結ぶ「아 오다」には前件の目的語が直接または間接的に後件につながることは確かである。

(23) a. 집에서 이를 닦고 오다.
(家で歯を磨いて来る。)
b. *집에서 이를 닦아 오다.
(家で歯を磨いて来る。)
c. 10년 이상 특별한 치약으로만 이를 닦아 왔다.
(10年以上特別な歯磨き粉だけで歯を磨いてきた。)
d. 새 구두를 닦아 오다.
(新しい靴を磨いて来る。)

(24) a. 손을 씻고 오다.
(手を洗って来る。)
b. *손을 씻어 오다.
(手を洗って来る。)
c. 줄곧 연수기물로 손을 씻어 왔다.
(ずっと軟水器の水で手を洗ってきた。)
d. 딸기를 씻어 오다.
(イチゴを洗って来る。)

このようにV1が同じ動詞であっても目的語の性質やV2の「来る」動作に維持したまま移動という意味を持つかどうかによって「고」と「아」の選択が決まるものもある。すなわち、(23a)、(24a) の「고」は目的語がいわゆる再帰性のもので「고 오다」形をとる。これらの目的語は動作主の体の一部であり、「歯を磨く」、「手を洗う」という動作が終わった後「来る」という移動をすることを表すのである。これを (23b)、(24b) のように「아 오다」形にすると非文になる。ただし、(23c)、(24c) のようにここに副詞などの文脈が加わると、ある時点からその動作、すなわち「磨く」や「洗う」という動作が繰り返し行われているというアスペクトの意味[13]を表す。一方、(23d)、(24d) の目的語はV1の動作を行った後、それを持った状態で「来る」動作が起きるので、V1の目的語が (持ったまま、維持したまま) V2の「来る」という移動を行うことになる。

「고 오다」形をとる動詞を分類してみると次のようになる。

(25) ①自 動 詞：자다 (寝る)、쉬다 (休む)、놀다 (遊ぶ)、뛰어놀다 (かけ遊ぶ) など
②着用動詞：걸치다 (かける)、끼다 (はめる)、들다 (持つ)、메다 (担ぐ)、벗다 (脱ぐ)、신다 (履く)、쓰다 (かぶる)、입다 (着る)、짚다 ((杖を) つく)、차다 (はめる) など
③再帰動詞：감다 ((髪を) 洗う)、깎다 (切る)、잡다 (握る)、씻다 (洗う)、닦다 (磨く)、바르다 (塗る) など
④他 動 詞：가르치다 (教える)、갈아입다 (着替える)、갈아타다 (乗り換える)、감다 (巻く)、감상하다 (鑑賞する)、감추다 (隠す)、갖다 (持つ)、건네주다 (渡す)、걸치다 (かける)、끝내다 (終える)、내놓다 (出しておく)、내려놓다 (おろしておく)、넘겨주다 (渡してあげる)、넘어서다 (越える)、놓다 (置く)、놓아두다 (置いておく)、놔두다 (置いておく)、늘어놓다 (並べておく)、돌려주다 (返す)、돌리다 (回す)、돌아다니다 (駆け回る)、돌아보다 (振り返る)、돌아서다 (回って立つ)、되돌아보다 (振り返る)、두다 (置く)、두르다 (巻く)、둘러보다 (見て回る)、드리다 (差し上げる)、듣다 (聞く)、들다 (食べる、飲む)、들려주다 (聞かせる)、들여놓다 (入れておく)、들이마시다 (吸い込む)、들이켜다 (飲み干す)、마치다 (終える)、만지다 (触る)、말다 (巻く)、맡기다 (預ける)、면담하다 (面談する)、면접하다 (面接する)、모르다 (知らない)、물어보다 (聞いてみる)、미끄러지다 (試験に落ちる)、바라다 (望む)、바라보다 (眺める)、벗다 (脱ぐ)、부딪히다 (ぶつける)、불다 (吹く)、비기다 (引き分ける)、빼놓다 (除

く)、쉬다(呼吸する)、실망하다(失望する)、쏘다(射る)、쏟다(こぼす)、쓰다듬다(なでる)、안다(抱く)、알아보다(気づく)、알아주다(わかってあげる)、앞두다(控える)、어쩌다(どうする)、얻어먹다(おごってもらう)、오르내리다(上がり下がりする)、올려놓다(あげておく)、올려다보다(見上げる)、울다(泣く)、잃어버리다(なくす)、잊어버리다(忘れる)、자극하다(刺激する)、잠그다(閉じる)、잡수시다(召し上がる)、재활용하다(再活用する)、제대하다(除隊する)、주고받다(取り交わす)、주무시다(お休みになる)、주차하다(駐車する)、중단하다(中断する)、지르다(叫ぶ)、질문하다(質問する)、짚다(つく)、짜다(組む)、차다(蹴る)、쳐다보다(見上げる)、타다(乗る)、퇴근하다(退勤する)、퇴원하다(退院する)、한잔하다(いっぱいする)、합격하다(合格する)など

このように、一部の自動詞「자다(寝る)、쉬다(休む)、놀다(遊ぶ)」と基本的に他動詞は「고 오다」形をとると言えるだろう。しかし、既存の研究ではあまり言及されていなかった他動詞の分類を再帰動詞、着用動詞に分けることでその他の他動詞との違いが説明できるであろう。すなわち、その他の他動詞は前件が完了した後、目的語の移動や維持状態はないまま「来る」の移動が行われるのに対して、(21)や(22)の「着用動詞」や(23)や(24)の「再帰動詞」の場合は、前件が行われた後その目的語が体の一部であるため維持したまま「来る」の移動が行われるという違いがある。また、「再帰動詞」は、体以外の物が目的語になると物の移動が想定されるため「아 오다」形をとることとなる。

ここに分類される着用動詞、再帰動詞、その他の他動詞を「아 오다」形にすると、以前から繰り返しその動作が行われているというアスペクトの意味を表すが、本稿ではアスペクトについては扱わないことにする。

3-2.「아 오다」だけが成立するもの

ここに分類されるものは自動詞が多い。一部の他動詞もあるが、他動詞の場合は一般的にその動作が行われてその目的語や対象を維持したまま「来る」ことを表す。自動詞の場合は、移動を表すものはV2「来る」の手段・方法の意味を表す。

(26) ①他 動 詞:건너다(渡る)、뒤따르다(後に従う)、따르다(従う)、떠나다(離れる)、사다(買う)、쫓다(追う)、찾다(探す)、타다(溶かす、とる)など
②自 動 詞:기다(這う)、구르다(転がる)、끼다(差し込む)、날다(飛ぶ)、내

리다（降りる）、눕다（横になる）、다니다（通う）、달리다（走る）、달아나다（逃げる）、담기다（盛られる）、더불다（共にする）、도망치다（逃げる）、들다（入る）、들리다（聞こえる）、떨어지다（落ちる）、뛰어내리다（飛び降りる）、뛰어들다（飛び込む）、뛰어오르다（飛び上がる）、모이다（集まる）、묻다（つく）、불다（吹く）、붙잡히다（捕まる）、서다（立つ）、서두르다（急ぐ）、숨다（隠れる）、앉다（座る）、앞서다（先頭に立つ）、앞장서다（先立つ）、익다（熟す）、일어나다（起きる）、입국하다（入国する）、잇따르다（相次ぐ）、잡히다（捕まえられる）、젖다（濡れる）、지나다（過ぎる）、집다（つかむ）、쫓겨나다（追い出される）、쫓기다（追われる）、취하다（酒に酔う）、튀다（はじける）など

김수정 (2004：213) では、「일어나다（起きる）、나가다（出ていく）、내리다（降りる）、건너다（渡る）、앉다（座る）、서다（立つ）、눕다（横になる）、사다（買う）、가다（行く）、오다（来る）」などの動作性用言がV1に来ると「아」をとるという。しかし、「가다（行く）、오다（来る）」は「아 오다」形と接続はできない。また、他動詞の場合は、前件の目的語は維持したまま後件の「来る」という移動を表すか、目的語を含めた前件の全体の状態で「来る」という移動を表す。

(27) 어제 반입된 부품은 폴리엑스트린 상자에 담겨 왔는데 폴리엑스트린은 재활용이 (後略).（k）
(昨日搬入された部品はポリエストリンの箱に入れられてきたが、ポリエストリンはリサイクルが（後略)。)

(28) 어느 날 어머니께서 참고서를 한 권 사 오셨다.(k)
(ある日お母さんが参考書を一冊買って来ました。)

(29) 꿀물을 타 오게 하여 울음구멍부터 겨우 틀어막은 다음（後略）(k)
(蜂蜜入りの飲み物を作って来させて泣き声をやっと止めたあと（後略))

(30) 교장은 외부활동으로 교육청에서 예산을 타 오거나 학부모나 동창회 쫓아다니면서（後略）(k)
(校長は外部活動として教育庁から予算を取って来たり親御さんや同窓会に会いに(後略))

(31) 저 멀리서 여러 개의 풍선같이 둥근 것이 도로 위를 기어 오고 있었다 (k)
(遠くからいくつもの風船のような丸いものが道路の上を這って来ていた。)

(32) 아침 일찍 일어나 학교에 온다.
(朝早く起きて学校に来る。)
(33) 전철 안에서는 앉아 왔어요.
(電車の中では座って来ました。)

ここに分類されるものは、V1に自動詞が来ることが多い。また、自動詞に「아 오다」がついて「날아오다(飛んでくる)、다녀오다(行ってくる)、따라오다(ついてくる)、달려오다(走ってくる)、데려오다(連れてくる)、지나오다(通り過ぎてくる)」などのような複合動詞として登録されているものも多い。

ただし、他動詞がくる場合は、先行文の動作が行われた後、その対象物を所持したまま「来る」ことを表す。3-1でみた再帰動詞の「씻다(洗う)、닦다(磨く)、바르다(塗る)、잡다(握る)」などは目的語が体の一部の場合は「고 오다」形を、前件の動作の結果物を所持したまま移動する場合は「아 오다」形を用いる。動詞「사다」は、一般的に物を買うので前件の買った後のものが移動することを想定する。

(34) 어머니가 서울에서 참고서를 사 오셨다.
(お母さんがソウルから参考書を買って来ました。)
(35) a. *어머니가 서울에서 집을 사 오셨다.
(お母さんがソウルから家を買って来ました。)
b. 어머니가 서울에서 집을 사고 오셨다.
(お母さんがソウルで家を買ってから来ました。)

(34)のように目的語が「参考書」の場合は参考書を買ってそれを持って移動することを表すのに対して、(35)の場合は目的語が「家」であるため、買った後に持ち運ぶのは想定できないため非文となるのである。そのため、(35b)のように、単なる羅列を意味する「고」形で表すことができるのである。目的語を所持したまま来ることはできないため、「買う」という動作の完了に焦点があてられるためであろう。

3-3.「고 오다」と「아 오다」の両方が成立するもの

「고 오다」形は、前件が行われて完了した後「来る」という移動を表すが、前件の目的語は後件には現れないのである。前述した(6a)のように前件の「友達に会う」と後件の「来る」には前件で会った友達は来ているとは想定しない。しかし、(6b)のようになると前件の目的語と「共に」移動が行われたことを表すのである。このように目的語が「共に移動する」かど

うかで意味の違いや「고」と「아」の選択も決まるのである。一方、「고 오다」形とも「아 오다」形とも用いることはできるが、両者の違いはほとんどないものもある。それらを提示することで日本人学習者が「고」と「아」をスムーズに選択できるであろう。

3−3−1．「고 오다」、「아 오다」の意味の違いがあるもの

ここにはV1にはほとんど他動詞が来る。「고」とも「아」とも結合することはできる。ここに属すものは「고」形で先行文の動作が行われて完了したあと「来る」という移動を、「아」形では先行文の目的語を所持した、あるいは共に「来る」という移動を表す。

(36) a. 공원 주위를 걷고 왔어요.
(公園の周りを歩いてから来ました。)
b. 공원 주위를 걸어 왔어요.
(公園の周りを歩いて来ました。)
(37) a. 비가 올까봐 빨래를 걷고 왔어요.
(雨が降るかと思って洗濯物を取り込んでから来ました。)
b. 비가 올까봐 빨래를 걷어 왔어요.
(雨が降るかと思って洗濯物を取り込んで来ました。)
(38) a. 몽타주를 그리고 왔어요.
(モンタージュを描いてから来ました。)
b. 몽타주를 그려 왔어요.
(モンタージュを描いて来ました。)
(39) a. 숙제 내 준 책을 읽고 왔어요.
(宿題に出した本を読んでから来ました。)
b. 숙제 내 준 책을 읽어 왔어요.
(宿題に出した本を読んで来ました。)
(40) a. 발랄한 젊은 단골들이 내가 고르고 온 신발로 (後略)
(溌剌としている若い常連達は私が選んでから来た靴で (後略))
b. 발랄한 젊은 단골들이 내가 골라 온 신발로 더욱 예뻐질 수 있다는 생각에 (後略) (k)
(溌剌としている若い常連達は私が選んで来た靴でもっときれいになれるという思いで)

(36a) は、「散歩して」から来たという意味を表し、(36b) は自転車ではなく「歩いて」来

たことを表す。従来の研究で「手段・方法」の意味の説明にV1が自動詞というキーワードを加えることで間違いを減らすことができるであろう。(37a) は洗濯物を「取り込んで」から洗濯物は持たないで来たことを表すのに対して、(37b) は洗濯物を取り込んで「持ってきた」ことを表す。

(38a)、(38b) も同様である。一方、「읽다 (読む)」は3−1の分類に属すものではあるが、(39b) は前件の目的語の移動というより読んだ本の内容の移動を表しているため「아 오다」形を用いている。目的語が具体的なもの以外にもこのようにその中身、あるいは象徴するものの移動にも「아 오다」形は選択できるのである。「읽다(読む)」類のものには「외우다(覚える)」もある。

(41) 감다(巻く)、감추다(隠す)、걷다(歩く)、걷다(取り込む)、계산하다(計算する)、계획하다 (計画する)、고르다 (選ぶ)、굽다 (焼く)、그리다 (描く)、긁다 (引っ掻く)、긋다 (引く)、까다 (剥く)、깎다 (削る)、깔다 (敷く)、꺾다 (折る)、끓이다 (沸かす)、남기다 (残す)、넣다 (入れる)、녹음하다 (録音する)、다듬다 (整える)、다지다(固める)、담다(盛る)、데우다(温める)、따다(摘む)、떼다(外す)、만나다 (会う) 만들다 (作る)、모으다 (集める)、밤새다 (徹夜する)、번역하다 (翻訳する)、벌다 (稼ぐ)、배우다 (習う)、벗기다 (剥がす)、복사하다 (コピーする)、복습하다 (復習する)、볶다 (炒める)、빼앗다 (奪う)、삶다 (ゆでる)、섞다 (まぜる)、싸다 (包む)、썰다 (切る)、쓰다 (書く)、인쇄하다 (印刷する)、읽다 (読む)、외우다 (覚える)、자르다 (切る)、접다 (折る)、찌다 (蒸す)、찢다 (破る)、찾다 (取り戻す)、포장하다 (包装する) など

3−3−2.「고 오다」、「아 오다」の意味の違いがないもの

ここに分類されるものの一部は複合動詞のものもある。「데려오다 (つれてくる)、가져오다 (持ってくる)」はすでに辞書の見出し語に載っている。これらは「고 오다」形で前件の目的語を持って、所有した状態で後件の「来る」が行われる。この点では、「着用動詞」にも似ている。また、前件の目的語を維持した状態で、あるいは、共に後件の「来る」移動が行われるという関係から「아 오다」形も用いることになったであろう。しかし、3−3−1の分類でみられる前件の目的語との関係が「고 오다」も「아 오다」も意味の違いがないためここに分類することにした。

(42) a. 아버지가 놀이터에 아들을 데리고 왔다.
(父が公園に息子を連れて来た。)

b. 아버지가 놀이터에 아들을 데려 왔다.
(父が公園に息子を連れて来た。)

(43) a. 순희가 카메라를 가지고 왔다.
(スンヒがカメラを持って来た。)
b. 순희가 카메라를 가져 왔다.
(スンヒがカメラを持って来た。)

(44) a. 아이를 유모차에 태우고 왔다.
(子供をベビーカーに乗せて来た。)
b. 아이를 유모차에 태워 왔다.
(子供をベビーカーに乗せて来た。)

(45) a. 장비를 전부 갖추고 왔어요.
(道具を全部揃えて来ました。)
b. 장비를 전부 갖춰 왔어요.
(道具を全部揃えて来ました。)

(46) a. 손님 모시고 왔는데요.
(お客様をお連れして来ましたが。)
b. 손님 모셔 왔는데요.
(お客様をお連れして来ましたが。)

(47) a. 직접 운전하고 왔어요?
(直接運転して来ましたか。)
b. 직접 운전해 왔어요?
(直接運転して来ましたか。)

(48) a. 어떤 아주머니가 거의 숨이 넘어가는 어린애를 업고 왔다. (k)
(あるおばさんがほとんど息が絶えそうな子供をおんぶして来た。)
b. "네, 아무 염려 마시오. 산에 쓰러져 있는 것을 업어 왔습죠." (k)
(「はい、何も心配しないで下さい。山に倒れているのをおんぶして来たんですよ。」)

(48)の「업다」は(48a)のように「업고 오다」でおんぶしてくる、おんぶした状態で移動するという意味を表すが、(48b)の「업어 오다」にすると「おんぶ」の意味は薄れて「運ぶ」という意味が強くなるようである。

(49) 요번에 아웃도어용 헤드폰 고르던중에 ath-es55 라는 모델이 이쁘길래 업어왔습니다. (g)

（今回アウトドア用のヘッドフォンを選んでいるときにath-es55というモデルが可愛くて買って来ました。）

（48b）の「運ぶ」という意味から最近、ネットでよく使われている「업어오다」は（49）のようにヘッドフォンを「購入した」という意味で使われている。

以上のように、ここに分類されるものはそれほど数は多くない。「데리고 오다 / 데려오다（つれてくる）、가지고 오다 / 가져오다（持ってくる）、태우고 오다 / 태워 오다（乗せてくる）、갖추고 오다 / 갖춰오다（揃えてくる）、모시고 오다 / 모셔오다（お連れする）など」のように学習者に二つの形を提示することで、日本語では一つの表現であるのに対して韓国語では意味の違いがないものを二つの表現で表すその紛らわしさを少しは解消させることができるであろう。

3-4．「고 오다」と「아 오다」の両方が成立しないもの

ここに分類されるものは移動を表す「가다（行く）、오다（来る）」を含めて状態を表す自動詞が多い。そのため、「가다(行く)、오다(来る)」がついて作られた複合動詞の「건너가다(渡っていく)、건너오다（渡ってくる）、나가다（出る、出ていく）、나오다（出る、出てくる）、내려가다(降りていく)、내려오다(降りてくる)、넘어가다(越える、越えてくる)、넘어오다(越える、越えてくる)、달려가다(走っていく)、달려오다(走ってくる)、빠져나가다(抜け出る)、빠져나오다（抜け出る)、올라가다（上がっていく)、올라오다（上がってくる)、지나가다（通り過ぎる）など」も「고 오다」形も「아 오다」形も成立しない。これらは後件が移動の「来る」がくることでより制約があるようになったのである。

（50）가다（行く)、겁나다（怖い)、관하다（する)、기억나다（思い出す)、깨끗해지다（きれいになる)、끓다（沸く)、나타나다（現れる)、놀라다（驚く)、닮다（似る)、모자라다（足りない)、오다（来る)、태어나다（生まれる）など

今回ではV2を移動動詞「오다」に限定することで先行する動詞には制限がある分、「고」と「아」の選択を少しは容易にできたのではないかと。（50）の動詞は前件と後件の主語や目的語が一致しない単なる二つの文を一つにつなげるなら「고」形は可能である。

4．おわりに

日本人の韓国語学習者が日本語の「て」形を韓国語に対応させるとき、「고」と「아」の選択において誤用が多いことは従来の研究で報告されている。これらの研究では、その解決策を探ってはいるものの「고」と「아」を用いた文の前件と後件の関係が自動詞や他動詞、目的語、

動詞の性質などいろいろな要素が絡んでいるためなかなか簡単にはその対策を導くことは難しかった。本稿は、日本人学習者ができる限り「고」と「아」を選択する際により分かりやすく使い分けることができる工夫の一つとして、「고」と「아」に後続するV2を空間や物の移動を表す「오다（来る）」に固定して考察を行った。この分類はある程度、一目で見やすいやめ学習者が「고」と「아」の選択の際に役に立つものになると考えられる。まず、「고 오다」形だけを用いるものは一部の自動詞と動作を表す他動詞が主である。しかし、ここに属する他動詞は「着用動詞」、「再帰動詞」、「（その他の）他動詞」に分類する必要がある。その理由は、「着用動詞」は着用が行われた目的語がそのまま後件まで維持されているためである。また、「再帰動詞」は目的語が体の一部の場合とそうでない場合には違いがあるためである。これは従来の教材や文法書で説明されていた「前件の目的語が後件まで保たれていると「아」形をとる」ということとは異なることとなる。そのため、他動詞は再帰動詞と区別して提示する必要がある。一方、「아 오다」形だけをとるものには主に自動詞が多かった。他動詞が来る場合は、「사다（買う）、타다（溶かす）など」に一部の他動詞に限られることが分かった。また、自動詞の場合は後件の「来る」の移動方法を意味するものが多かった。従来の説明の「手段・方法」という項目にV1が自動詞の場合は「아」形を用いることが多いという説明を加えることで、学習者の「고」と「아」の選択に間違いが減ると考えられる。また、「아 오다」形で複合動詞として辞書に搭載されているものはそのまま提示することで（1 a、b）のような日本語の「て来る」に対応する韓国語は初級の段階から自然に使い分けるのではないかと考えられる。しかし、連結語尾の「고」と「아」とV2の組み合わせのものを一々単語として覚える負担が増えるのは否定できない。次に、「고 오다」形と「아 오다」形が両立する場合は意味の違いがあるものとないものに分けて考察した。意味の違いがあるものは、従来の研究で述べてきたように前件の目的語と後件との関係であることが分かった。すなわち、前件の目的語を維持したまま、あるいはV1の動詞の完了後の状態を持ったまま、または同伴して「来る」ことになると「아 오다」形を用いる。単なる羅列の意味である前件の動作の完了後、後件の「来る」が行われると「고 오다」形用いられる。意味の違いがないものは「데리고 오다 / 데려오다（つれてくる）、가지고 오다 / 가져오다（持ってくる）など」数が多くないのでそれを提示することで誤用を減らすことができると考えられる。また、これらの「아 오다」形は複合動詞として辞書に掲載されているものもある。「고 오다」形と「아 오다」形の両方が成立しないものには、「가다（行く）、오다（来る）など」の自動詞や状態を表す他動詞が属している。

以上、今回は後件を「오다」に限定することで「고」と「아」の全体をみることはできなかったが、今後この分類を踏まえて他の移動動詞も含めてさらに考察を行う必要があると考えられる。また、V2を移動動詞以外にも拡大して考察することで日本人の韓国語学習者の誤用が減ることに役に立つ結果が期待されるのではないかと思われる。

注

1　語幹の母音が陽母音か陰母音かによって「아」か「어」を選択するが、以下統一して「아」という。

2　語幹が母音で終わる場合、「아」は表示されなかったり、語幹の母音と合わさって表示されたりする。「사다（買う）」は「아」は表示されない。

3　유경화（1999）では「継起」の「て」の対応に「고」は31.7％、「아」は53.6％だという結果を示している。

4　719の用例の中、「아」は293個、「고」は132個、その次が「며」で34、「면서」24などである。

5　「아서」形は「아」と同じ意味を表わしている。김홍수（1977：132）では「서」は副次的な意味しか表さないと言っている。それに倣い本稿では「아」で統一して使うこととする。

6　『말이 트이는 한국어２：53』では「密接に関連している」という表現を使っている。また、『改訂版韓国語レッスン初級Ⅱ：55』では「先行文の動作が後続文の動作より先に起こり、互いに関連性を持っていることを表す」と説明している。

7　韓国語で二つの文を提示して「고」か「아」で連結させる練習を行った。対象は、韓国語を専攻としている大学１年生で、韓国語関連の授業は週６コマであり、韓国語の学習歴は７か月の生徒である。クラスのレベルはプレースメントテストによって集められているので、レベルの大きな差はない。19問の中、V1に「洗う」という動詞を使った文を二つ続けて提示して「고」か「아」の選択をさせた。

例１）손을 씻다（手を洗う）/ 밥을 먹다（ご飯を食べる）
例２）딸기를 씻다（イチゴを洗う）/ 먹다（食べる）

その結果、22名中９名が両方とも正しく答えを出していて、12名は「아」に統一して、１名は「고」に統一して答えた。例１）の答えは「고」であり、例２）の正しい韓国語は「아」形である。

8　106ページに以下の説明がある。（下線は筆者が引く）

・前の事柄に続いて後ろの事柄が起きる場合→고にする。
例）세수를 하고 밥을 먹습니다.
（顔を洗ってご飯を食べます。）
ただし、次の場合は아서になることが多い。
①　前の事柄と後ろの事柄の主語が同じで、前の事柄に自動詞が使われている場合
例）백화점에 가서 선물을 샀어요.
（デパートに行ってプレゼントを買いました。）
②　前の事柄と後ろの事柄に他動詞が使われていて、その主語と目的語が同じ場合
例）인삼차를 잘 저어서 마셨어요.
（高麗人参茶をよくかき混ぜて飲みました。）」
に書いてある。

9　注７で述べた同じ韓国語学習者を対象に以下の韓国語の二つの文を提示して「고」か「아」で連結させた。

例１）영화를 보다 / 같이 이야기하다
（映画を見る / 一緒に話す）

例２）책을 읽다 / 감상문을 쓰다
（本を読む / 感想文を書く）

例１）、例２）ともに「고」形で連結するのが自然な韓国語である。しかし、例１）は22名中、15名が「고」を、７名が「아」に答えた。例２）は９名が「고」を、13名が「아」に答えた。この中で、例１）と例２）の答えを「고」か「아」のどちらかの一つに統一して答えた人が15名であった。

10　動詞の見出し語は1212個である。しかし、見出し語には名詞（漢語名詞）であるが括弧に「하다」がついているものも動詞としてカウントした数である。

11 「아 오다」形である時点から繰り返し行われている、あるいはある時点から続けて行われているというアスペクトの意味を表すものはカウントから省いた。

12 『英語学用語辞典』によると、再帰用法とは動作主のなす動作が自己にかかわってくることを表す用法という。

13 『国立国語院標準国語大辞典』では、「아 오다」は補助動詞として前件の行動や状態が話し手、あるいは、話し手が決めている基準点に近づきながら進行し続けることを表すと記されている。

参考文献

【韓国語で書かれたもの】

남기심 (1970)「이음씨끝 '-아' 를 매개로 한 겹씨의 움직씨 형성에 대하여」『한글』146 한글학회

김홍수 (1977)「계기의 '-고' 에 대하여」『国語学』５国後学会

이상복 (1978)「국어의 연결어미에 대하여 —'-아서'를 중심으로—」『말』３

남기심 (1978)「'아서' 의 화용론」『말』３ 연세대 한국어학당

이기갑 (1981)「씨끝 '-아' 와 '-고' 의 역사적 교체」『語学研究』17-２

이정택 (1988)「'-고'와 공존하는 도움풀이씨 연구」『한글』200 한글학회

서정수 (1990)『国語文法의 研究Ⅱ』韓国文化社

박종갑 (1997)「접속문 어미 '고'의 의미 기능 연구 (1) -통사적 분류의 의미적 의존성을 중심으로」『영남語文学』31

이기갑 (1998)「'어 / 어서'의 공시태에 대한 역사적 설명」『談話와 認知』５-２ 談話認知言語学会

유경화 (1999)「日本語의「～テ」와 韓国語의 「～고」,「～어서」対照研究」『日語日文学研究』35

박종갑 (2000)「접속문 어미 '고'의 의미 기능 연구 (3) -문장의 선형 구조와 관련된 도상성을 중심으로-」『国語学』35

김수정 (2004)『한국어 문법 교육을 위한 연결 어미 연구』韓国文化社

남수경・채숙희 (2004)「한국어 학습자의 연결어미 사용 연구」『韓国語教育』15-１ 国際韓国語教育学

나성숙 (2005)「한국어의 "-아 /-어 " 형에 대한 소고 - 일본어의 연용형과 대조 - 」『二重言語学』29 二重言語学会

김은경 (2006)「시간의 연결어미 '-아 / 아서'의 통사론적 특성을 이용한 지도 방안」『韓国語教育』17-１ 国際韓国語教育学会

김정남 (2006)「한국어 학습자의 오류 유형에 대한 연구 -시제 및 연결어미 표현을 중심으로-」『二重言語学』32 二重言語学会

오선영 (2006)「'일본인 학습자를 위한 한국어 문법 사전'에서의 기술 방법론연구-한국어 연결어미 '-아서'의 의미 기술을 중심으로-」『文法教育』４ 韓国文法教育学会

오자키 다쓰지 (2007)「접속조사 와 한국어 연결어미 대조연구

【日本語で書かれたもの】

生越直樹 (1987)「日本語の接続助詞「て」と朝鮮語の連結語尾 {a} {ko}」」『日本語教育』62

権在淑 (1994)「現代朝鮮語の接続形Ⅲ－서について」『朝鮮学報』152

宮島達夫他 (1998)『日本語類義語表現の文法 (下)』くろしお出版

内山政春 (1999)「現代朝鮮語の接続形-어서-と-고-について」『朝鮮学報』173

鄭玄淑 (2001)「Ⅰ-고Ⅲ-서と動詞のアスペクト的特徴との関連性—アスペクト形式による用言分類を通して—」『朝鮮学報』180

森田良行 (2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房

孫禎慧 (2005)「日本語を母語とする韓国語学習者の誤用分析－해서形と하고形を中心に－」『朝鮮学報』195

近藤安月子他（2012）『日本語文法の論点43』研究社
印省熙（2013）「韓国語学習者における接続形の誤用について－日本人学習者の作文例から－」『朝鮮語教育－理論と実践－』８ '-어（서）','-고'와의 대조를 중심으로-」『한글』275

【文法書・韓国語教材・辞書類】

이재욱（2006）『韓国語必須単語6000』ハングルパーク
『신개정 외국인을 위한 한국어 문법』（2001）임호빈 외 연세대학교 출판부
『말이 트이는 한국어２』（2003）이화여자대학교 출판부
『외국인을 위한 한국어 문법２』국립국어원（2005） 커뮤니케이션북스
『TOPIK 대비 한국어 문법 연습』교육진흥연구회
『ことばの架け橋』（2001）白帝社
李姫子・李鐘禧（2010）『韓国語文法語尾・助詞辞典』スリーエーネットワーク
『韓国語へのとびら』（2011）朝日出版社
『改訂版韓国語レッスン初級Ⅱ』（2002）スリーエーネットワーク
『実用韓国語文法初級日本語版』（2012）DARAKWON
『英語学用語辞典』（1999）三省堂
『新版日本語教育辞典』（2006）J&C
『国立国語院標準国語大辞典』（2013）（韓国語）電子辞書
『高麗大韓国語辞書』（2013）（韓国語）電子辞書

＜例文の出典＞

K　http://morph.kaist.ac.kr/kcp/
세　http://www.sejong.or.kr/
G　google